

# キリストを証しする者のモデル

## ヨハネ福音書1:19-28

- 1:19 さて、ヨハネの証しはこうである。ユダヤ人たちが、祭司たちとレビ人たちをエルサレムから遣わして、「あなたはどなたですか」と尋ねたとき、
- 1:20 ヨハネはためらうことなく告白し、「私はキリストではありません」と明言した。
- 1:21 彼らはヨハネに尋ねた。「それでは、何者なのですか。あなたはエリヤですか。」ヨハネは「違います」と言った。「では、あの預言者ですか。」ヨハネは「違います」と答えた。
- 1:22 それで、彼らはヨハネに言った。「あなたはだれですか。私たちが遣わした人たちに返事を伝えたいのですが、あなたは自分を何だと言われるのですか。」
- 1:23 ヨハネは言った。「私は、預言者イザヤが言った、『主の道をまっすぐにせよ、と荒野で叫ぶ者の声』です。」
- 1:24 彼らは、パリサイ人から遣わされて来ていた。
- 1:25 彼らはヨハネに尋ねた。「キリストでもなく、エリヤでもなく、あの預言者でもないなら、なぜ、あなたはバプテスマを授けているのですか。」
- 1:26 ヨハネは彼らに答えた。「私は水でバプテスマを授けていますが、あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます。」
- 1:27 その方は私の後に来られる方で、私にはその方の履き物のひもを解く値打ちもありません。」
- 1:28 このことがあったのは、ヨルダンの川向こうのベタニアであった。ヨハネはそこでバプテスマを授けていたのである。

### 【折りながら考えよう】

- (1) ユダヤ人の指導者たちが、ヨハネのもとに「祭司たちとレビ人たち」を遣わしたのはなぜですか。
- (2) ヨハネは自分を何であると答えましたか。それはどういう意味ですか。
- (3) 「キリストでも、エリヤでもなく、またあの預言者でもないなら、なぜバプテスマを授けているのですか」との質問に、ヨハネは何と答えていますか。それはどういう意味ですか。

### 【解説】

#### (1) 祭司とレビ人を遣わす

《さて、ヨハネの証しはこうである。ユダヤ人たちが、祭司たちとレビ人たちをエルサレムから遣わして、「あなたはどなたですか」と尋ねたとき》(19節)

メシヤが今にも来られるから悔い改めよ、と国全体に語っている《ヨハネ》という人物の知らせがエルサレムに届くと、ユダヤ最高議会の指導者たちは、《祭司とレビ人》から成る一団を派遣し、ヨハネがどんな人物なのかを突き止めようとした。

「あなたはいったいだれなのか」と彼らは尋ねた。

「あなたは我々が長い間待望してきたメシヤですか」



#### (2) 私はキリストではない

《ヨハネはためらうことなく告白し、「私はキリストではありません」と明言した。》(20節)

ヨハネでなければ、この機会を逃さず、いかにも自分がキリストである、と主張して名声を得ようとしたかもしれない。

しかし、ヨハネは誠実な証人であり、自分はキリスト(ヘブル語でメシヤ)ではない、と証言した。

#### (3) エリヤですか、あの預言者ですか

《彼らはヨハネに尋ねた。「それでは、何者なのですか。あなたはエリヤですか。」ヨハネは「違います」と言った。「では、あの預言者ですか。」ヨハネは「違います」と答えた。それで、彼らはヨハネに言った。「あなたはだれですか。私たちが遣わした人たちに返事を伝えたいのですが、あなたは自分を何だと言われるのですか。」》(21-22節)

キリストの来臨の前にエリヤが地上に再来する(マラキ4:5)との預言をユダヤ人は知っていた。そこで、もしヨハネがキリストでないなら、ことによると《エリヤ》ではないのか、と彼らは推論した。しかし、自分はエリヤでもない、とヨハネは彼らにはっきり告げた。

さらに、申命記18:15で、モーセはイスラエルの民にこう言っていた。  
《あなたの神、主は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない》

ユダヤ人はこの預言を覚えていた。そこで彼らは、「ヨハネは、モーセが言っていた『あの預言者』ではないだろうか」と思った。

しかし、またしてもヨハネは、自分はそのような者ではない、と言うのであった。派遣されて来た彼らが、明確な答えを持たずにエルサレムに帰ることは面目ないことであった。そこで、あなたはいったい自分をだれだと言うのか、と説明を求めた。

#### (4) 私は荒野で叫ぶ者の声である

《ヨハネは言った。「私は、預言者イザヤが言った、『主の道をまっすぐにせよ、と荒野で叫ぶ者の声』です》(23節)

ヨハネは、彼らの問いに答えて、イザヤ40章3節を引用した。「私は『荒野で叫ぶ者の声』です」と言った。

《荒野で叫ぶ者の声とする。【主】の道を用意せよ。荒れ地で私たちの神のために、大路をまっすぐにせよ》それは、主キリストの到来を告げる先駆者の出現を預言している個所である。自分はそこに預言されている「主の道を用意する者である」、とヨハネは答えた。

私は《声》である、自分は賞賛や賛辞を受けるような偉大な人物ではなく、《声》にすぎない、と言った。声は姿が見えない。聞こえるだけである。ヨハネは《声》であったが、キリストは《ことば》である。ことばは人に届くために声を必要とする。ことばなるお方は、声よりも無限に尊いお方であるが、そのお方の声となるのは、私たちキリスト者の特権ともなり得る。

#### (5) なぜバプテスマを授けているのですか

《彼らは、パリサイ人から遣わされて来ていた。彼らはヨハネに尋ねた。「キリストでもなく、エリヤでもなく、あの預言者でもないなら、なぜ、あなたはバプテスマを授けているのですか。」》(24-25節)

《パリサイ人》は、律法に関する優れた知識と、旧約聖書の命令を細部まで徹底的に実行することを自負する、厳格なユダヤ人の一派を形成していた。もしヨハネが、名前の挙がった重要人物(キリスト、エリヤ、あの預言者)のどれかでもないとするなら、ヨハネがバプテスマを授ける権威がどこにあるのか、越権行為ではないのか、彼らはヨハネを糾弾するかのように言った。

#### (6) 私にはその方の履き物のひもを解く値打ちもない

《ヨハネは彼らに答えた。「私は水でバプテスマを授けていますが、あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます。その方は私の後に来られる方で、私にはその方の履き物のひもを解く値打ちもありません。」》(26-27節)

《私は水でバプテスマを授けている》とヨハネは言ったが、自分が重要だ、などとはだれにも思って欲しくなかった。

ヨハネの任務はキリストを迎え入れる備えを人々にさせる、ということだけだった。聴衆のだれかが罪を悔い改めるたびに、内側の変化を象徴する外面的な表現として、ヨハネは水でバプテスマを施した。

《あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます》とヨハネは言ったが、それはもちろんイエスを指してのこと。

「私を、何か重要な人間だ、などとは思ってはならない。あなたがたが注意を向けなければならないのは主イエスなのだ。そのお方がどなたであるかを、あなたがたはまだ知らない」というのがヨハネの言い分であった。

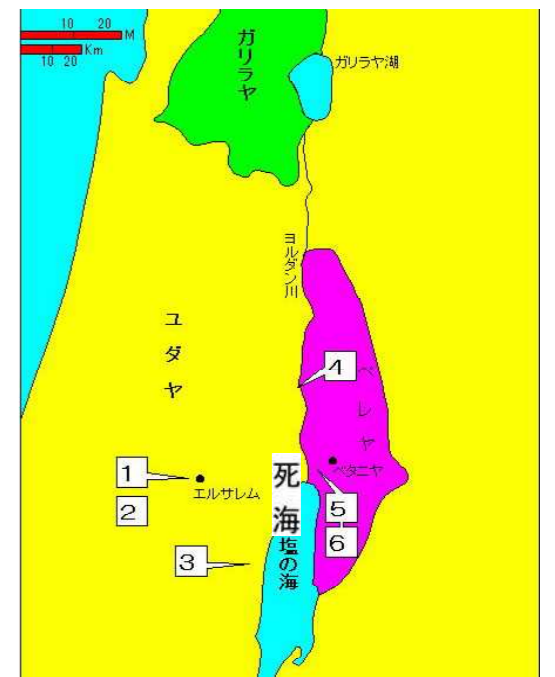
私はそのお方を証しするための存在でしかない。主イエスは、バプテスマのヨハネの後に登場されたが、主こそ、すべての賞賛にふさわしく、並ぶものないお方なのである。

当時、主人の履物のひもを解くのは奴隷の務めであった。ヨハネは、それほど低い奴隷の務めであっても、永遠の神である主イエスに対して、それをする資格が自分にはない、と思った。ヨハネは主イエスと自分との関係を、師弟の関係や主人と奴隷との関係ではなく、造り主と造られた者との関係として、このように表現した。

#### (7) ヨルダン川向こうのベタニアでの出来事

《このことがあったのは、ヨルダンの川向こうのベタニアであった。ヨハネはそこでバプテスマを授けていたのである。》(28節)

このベタニアはエリコに近いヨルダン川の東岸(ペレヤ)にあった。エルサレム近郊のベタニアではない。



- ③ 彼は、ユダヤの荒野で成長する。(ルカ1:80) ㊦
- ④ 30代になってヨハネは荒野から召し出され、ヨルダンの谷で活動を始める。彼は、人々を悔い改めとバプテスマに招き、弟子を集めた。彼らは、祈り、断食をし、貧しい者に着物を着せ、食物を分け与えることを教えられた。(ルカ3:1-17) ㊦
- ⑤ ヨハネはヨルダン川の東で、ユダヤ人の権威者たちから尋問され、自分はメシヤではなく、メシヤの到来を告げる者である、と答える。(ヨハネ1:19-28) ㊦